

第2回記者会見資料

2014.4.4

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015
展覧会の構成および参加作家第一弾発表

Kyoto
International
Festival
of
Contemporary
Culture



PARASOPHIA

広報に関するお問合せ

京都国際現代芸術祭組織委員会事務局（PARASOPHIA事務局） 担当：大西、平

TEL: 075-257-1453 FAX: 075-257-1454

E-mail: press@parasophia.jp URL: www.parasophia.jp

〒604-8152 京都市中京区烏丸通蛸薬師下ル手洗水町645 flowing KARASUMA 2階

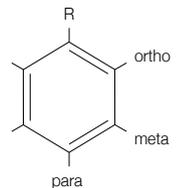
■ ディレクターからのメッセージ

京都国際現代芸術祭2015 PARASOPHIAについて

アーティストティックディレクター
河本信治

大規模な国際展となる**京都国際現代芸術祭2015**に多くの人々に興味を持っていただくために、タイトルは短くて覚えやすい単語を、その音感を重視して考えました。日本人にとっては覚え易さと若干の不思議さを感じさせるものを、そして海外の複数の文化圏の人々にも**京都国際現代芸術祭2015**の趣旨を感覚的に伝達可能な単語を探し、PARASOPHIAに行き着きました。PARASOPHIAは、sophiaという女性的な語感とparaという軽い音感、さらにそれが暗示する図像イメージと世界地図での京都の位置をもとに着想しました。

PARASOPHIAはparaとsophiaを結合した造語で、どちらもギリシャ語を語源とします。sophiaは叡智や学問体系を意味し、paraは接頭辞で、パラドクス、パラソル、パラシュート、パラフレーズ、パラノイア、パラメーターなどのように、「別の、逆の、対抗的な」という意味合いで使われます。またparaは高校化学でお馴染みの芳香族、ベンゼン環の結合基の位置関係オルト、メタ、パラを指し、paraは六角形のベンゼン環で対面の関係を示しています。一般的にortho(オルト)は「オーソドックス、正規の」という意味を、meta(メタ)は「～を超えて、超越」といった上位の階層性を暗示します。私は堅苦しさを感ずるorthoやヒエラルキーを暗示するmetaよりも、paraの方が好ましく感じました。



PARASOPHIAという単語を思い付いたとき、イスタンブールのアヤソフィア(聖ソフィア寺院)を思い出しました。東ローマ帝国やビザンチン、そしてイスラムの叡智が凝縮されたアヤソフィアが所在するイスタンブールと京都は、世界地図で見るとちょうどアジア大陸の東西の両端であり、互いにパラ位置の関係にあります。またイスタンブールは陸と海のシルクロードの起点の一つであり、京都はその終着点としての位置関係にもあります。国際交流と文化の集積地としての京都を考える上で、この位置関係はとても象徴的なものに思えました。

ベンゼン環の図像イメージは、京都の歴史と都市構造の変遷についても想いを運んでくれます。794年から矩形グリッドで造営された平安京は、応仁の乱を経て痩せ細り南北に細長い六角形となります。しかし京都は16世紀中葉から都市としての活力を回復し、19世紀後半からは徐々に東西に市街地を拡大してベンゼン環に似た形状を持つ現在の形に至ります。ベンゼン環の構造図は、まるで生命体のような、不死の都市・京都の象徴的な図像に私には思えます。外に向けて接合子を延ばすベンゼン環は、強い求心力を持つ都市・京都そのものであり、京都の歴史と伝統の本質の一つである、絶えず外部の多様で均一ではない知性や才能を引き寄せる魔術的な力を表しています。そして過去と未来を繋ぐ京都という可能性に満ちた【魔法陣】を守り支えているのが、京都に住まう人々であることは言うまでもありません。京都と関係を結んだ才能や知性はこの地で新たな何かを着想し、新たな創造と表現のインスピレーションを得ると同時に、京都という都市に更なる力と可能性を加えてきました。PARASOPHIAという単語には、京都は消費の都市ではなく知や文化の創造の場であり、その装置なのだという想いを込めています。

国内外の約40名による先鋭的な作品や芸術表現を紹介する**PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015**は、家族で楽しめる軽やかさと楽しさと同時に、国内外の専門家たちの知的共感も吸引する重層的な内容を持つ芸術祭を目指します。

参加作家

蔡國強 (ツァイ・グオチャン) Cai Guo-Qiang

1957年中国福建省泉州生まれ、ニューヨーク在住
www.caiguoqiang.com



蔡國強「農民ダ・ヴィンチ」2013 サンパウロ、ブラジル銀行文化センター屋外での展示風景
Photo by Joana França

北京オリンピック開会式の花火の演出、火薬で描く「火薬絵画」などのダイナミックな作品制作や奇抜なプロジェクトで世界的に知られる。1986年から1995年まで日本に滞在し、筑波大学在学中に河口龍夫から現代美術について薫陶を受ける。1994年には京都市役所前で「長安からのお祝い——平安建都1200年のためのプロジェクト」を行う。その後ニューヨークに活動拠点を移し、漢方薬や風水など、中国の伝統文化を題材に彼独自の批判精神を加えて現代美術の言語に置き換える作品を制作している。

1999年の第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展では《ヴェネツィア収租院》というインスタレーション作品で金獅子賞受賞。2007年に第7回ヒロシマ賞、2012年に第24回高松宮殿下記念世界文化賞を受賞した。

彼は十年近くの時間をかけて、中国僻地の農民が知的な好奇心と製作衝動によって日常生活の身近な材料だけで自作した、ロボットや潜水艦、飛行機などを収集する「農民ダ・ヴィンチ」のプロジェクトを続けている。この一部が2015年京都での作品の核となる。

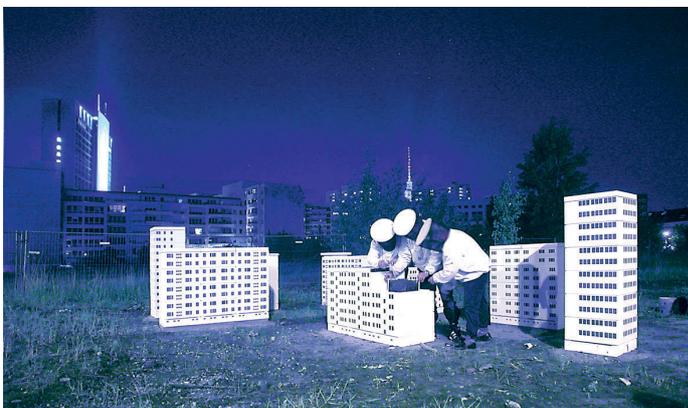
ヘフナー/ザックス Hoefner/Sachs

フ란ツ・ヘフナー Franz Hoefner

1970年ドイツ・シュタルンベルク生まれ、ベルリン在住

ハリー・ザックス Harry Sachs

1974年ドイツ・シュトゥットガルト生まれ、ベルリン在住



Hoefner/Sachs, *Honey Neustadt*, 2006. © Hoefner/Sachs

ベルリンを拠点に活動するユニットで、都市環境下の建築と居住の問題を過激なユーモアを盛り込んだ美術的手法を使い、プロジェクト、パフォーマンスとして作品化している。彼らの作品には、単なるシェルターとしての「住宅」と長く生活する空間としての「住居」との建築的境界線を問いかけるものが多い。その一例である2006年の《Honey Neustadt》プロジェクトでは、旧東ドイツ・ハレの化学プラント労働者のベッドタウン、ハレ=ノイシュタットで1960年代から1980年代後半にかけて建てられたプレハブ住宅を模し、発泡スチロール製の巣枠を積み上げて1/20のミニ住宅を作り、当時大量発生して駆除の対象になりかけた100万匹のミツバチのための労働者住宅としての蜂の巣を設置した。そこで収穫された250kgの蜂蜜は「ベルリンの花」というラベルで商品ならびに美術作品として販売された。

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015では、京都での長期滞在と都市調査に基付くプロジェクトが構想されている。

参加作家

石橋義正 Yoshimasa Ishibashi

1968年京都生まれ、京都在住
www.ishi-pro.com



『ミロクローゼ』2011 監督・脚本・製作・編集：石橋義正 © Milocrorze Project

ピピロッチェ・リスト Pipilotti Rist

1962年スイス・グラープス生まれ、チューリヒ在住
www.pipilottirist.net



Pipilotti Rist, *Mercy Garden Retour Skin*, 2014. Audio video installation (photograph inspired by Yujij). Courtesy of the artist, Hauser & Wirth and Luhring Augustine.

京都市立芸術大学大学院造形構想在学中にロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)映画科に交換留学後、アマチュアの俳優と共に低予算で制作した16mm映画『狂わせたいの』(1997)が第8回日本映画プロフェッショナル大賞新人監督賞を受賞、映画界だけでなく一部の美術関係者からも「上質なB級映画」として高い評価を受けた。最新作は石橋オリジナル脚本の長編映画、山田孝之主演『ミロクローゼ』(2011)。

また、美術、音楽、映像が融合するグループ「キュピキュピ」を主宰し、作品制作やパフォーマンスを行ってきている。その領域横断的で過激な娯楽性に満ちた作品は、1999年の「身体の夢」(京都国立近代美術館)への出品以降、世界各地の美術館や国際展に招待されている。2010年に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館で個展開催。2011年の京都創生座とのコラボレーション作品『伝統芸能バリエブル』(京都芸術劇場春秋座)では、伝統浪曲や日本舞踊、和太鼓などの伝統芸能に生きる女性たちと共演、古典芸能のステージに3D映像を使用し話題を呼んだ。

ウィーンの工芸学校、バーゼルのスクール・オブ・デザインで学ぶ。音楽グループのステージデザイナーからメディアアートに進む。男性社会が女性に投げかけるクリシェを巧みに逆用しその偏見を暴露するとともに、「女性らしさ」の否定的な側面を肯定し、女性達を励ます作品を制作。この一連の作品の集大成である《Ever is Over All》は1997年第47回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展で若手作家優秀賞を受賞した(同作品の日本初公開は1999年京都国立近代美術館で開催された展覧会「身体の夢」であった)。近年の作品は家具や日用品などを取り込む大型のビデオインスタレーションが多いが、抽象的かつ装飾的な表現を通じた視覚原理への興味と豊かな色彩へのこだわりはより先鋭化している。彼女は質問に答える形で何度も、「私はただ【色】を世界に取り戻し、現実近づこうとしているんです」と語っている。

日本での個展には原美術館での「ピピロッチェ・リスト：からから」(2007-08)がある。ヨコハマ国際映像祭2009では、初の長編映画『PEPPERMINTA』がアジアで初めて上映された。

参加作家

ウィリアム・ケントリッジ William Kentridge

1955年南アフリカ共和国ヨハネスブルグ生まれ、同市在住



William Kentridge, *NO, IT IS*, 2012. Photo by Cathy Carver, courtesy of Marian Goodman Gallery, New York. © William Kentridge

「動くドローイング」とも呼ばれる素描をコマ撮りした手描きアニメーション・フィルムで世界的に知られた美術家。人形劇やオペラの舞台監督、俳優、演出家、著述家など多彩な分野でも活躍している。近年は複数の人々を巻き込む大規模な構成の作品が増えたが、あくまでも彼の作品は、スタジオ内での膨大な思索と手作業が集積されたアニメーションと彼自身の身体的思考が基本である。彼の母国である南アフリカの状況を、「自分のスタジオ」を起点として考察し、ヨーロッパ近代の知と技術史を手掛かりに、身体感覚を伴う堅実な歩みで人間の普遍的問題を検証し、視覚的な表現へと昇華している。日本では2009-10年に京都国立近代美術館ほか2都市での大規模な個展の開催。2010年には第26回京都賞(思想・芸術部門)を受賞するなど、日本および京都との関係も深い。

2012年ドクメンタ13に出品された壮大なビデオ・インスタレーション《時間の抵抗》は、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015のイベントとして、2014年2月-3月に京都の元・立誠小学校講堂で展示された。

スーザン・フィリップス Susan Philipsz

1965年イギリス・グラスゴー生まれ、ベルリン在住
www.susanphilipszyouarenotalone.com



Susan Philipsz, *Study for Strings*, 2012. Installation view at Kassel Hauptbahnhof, Kassel. Photo by Eoghan McTigue, courtesy of the artist, Galerie Isabella Bortolozzi, Berlin and Tanya Bonakdar Gallery, New York. © Susan Philipsz

初期の作品は彼女の歌唱を唯一の音源(楽器)として使い、民謡やポップスを歌う彼女の声をシンプルなスピーカー構成で作品化する。作品は美術館やギャラリーなどの空間ではなく、バス停や高架下、スーパーマーケットなどの日常的な騒音が混在する場所に置かれることが多い。設置場所に応じて選ばれる歌は、しばしば政治的、社会的な意味を持っているが、フィリップスの優しい歌声は、歌詞が伝えるメッセージだけではなく、鑑賞者自身の個人的な記憶や感情を強く喚起し、聞く者に今いる場所の記憶を再認識させる。彼女の作品はサウンドインスタレーションとして分類されることが多いが、音を素材に時間と空間を分節する彫刻であるともいえる。2000年のマニフェスタ3、2007年にミュンスター彫刻プロジェクト、2012年ドクメンタ13に参加。2010年のターナー賞を受賞。

参加作家

ドミニク・ゴンザレス=フォルステル Dominique Gonzalez-Foerster

1965年フランス・ストラスブール生まれ、
パリとリオデジャネイロを拠点に活動
www.dgf5.com



ドミニク・ゴンザレス=フォルステル 《M.2062 (Scarlett)》
2013年9月6日 PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015 オープンリサーチプログラム
写真: 林直 提供: PARASOPHIA事務局 © Dominique Gonzalez-Foerster

やなぎみわ Miwa Yanagi

1967年神戸生まれ、京都在住
www.yanagimiwa.net



やなぎみわ演劇プロジェクト『1924 人間機械』 2012

グルノーブルの美術学校を卒業後、80年代後半から自身が「ルーム」と呼ぶ一連の部屋のインスタレーションを制作する。映像、光、音、家具などが組み合わせられるその作品は、知覚を通じて鑑賞者の記憶を刺激し、作品である室内を物語に満ちた本であるかのような空間に変容させる。彼女の作品は鑑賞者とのインタラクティブな関係を重視するだけでなく、作品状況を生み出す過程で生じる物理的・心理的構成要素の間の関係性、特に制作過程での人々の関与を重視しており、その作品はリレーショナル・アートとして分類されてきた。

近年はシネマ、テキスト、本、言語から発生するイメージとフィクション(物語)の、織物にも似た複雑な関係を、様々なメディアを使いながら深く静かに考察するパフォーマンスや映像作品を制作している。

2013年9月オープンリサーチプログラム03として実演された《M.2062(Scarlett)》は彼女の、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015のための最新の習作であった。

制服姿のエレベーターガールの写真シリーズなど、現代社会に生きる女性を扱った作品で90年代半ばから注目を集める。最初期の作品に案内嬢を使ったパフォーマンスがあり、その後の写真・映像作品にも演劇的側面は重要な作品要素であった。近年その演劇志向はより強まり、築地小劇場を題材とした演劇三部作『1924』(2011-12)が上演された。匿名の声というメディアに取り組んだ『ゼロ・アワー ~東京ローズ最後のテープ』(KAAT 神奈川芸術劇場、愛知県芸術劇場[あいちトリエンナーレ2013])を作演出。写真作品のモデルであった「案内嬢」は、劇中で狂言回しとして登場している。ヨコハマトリエンナーレ2014では、中上健次の『日輪の翼』を舞台化するための移動舞台車を発表。4ヶ月後のPARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015では、その舞台車を引き継ぎ、京都での移動演劇の上演の実現を目指している。やなぎのプロジェクトは二つの国際展を横断するという画期的な試みとなる。

(2014.4.4 現在)

オープンリサーチプログラム

芸術祭の会期だけでなく、その準備期間も芸術祭の一部として、アーティストックディレクターとキュレトリアルチームが、2015年芸術祭に向けて行う調査研究のプロセスを広く一般に公開し共有するために「オープンリサーチプログラム(以下ORP)」を2013年6月より不定期で開催しています。これまで、参加候補作家によるレクチャー、海外の国際展のリサーチ、映像・映画の研究や建築家、小説家などをゲストに招き、多岐にわたるテーマで行ってきました。プログラムは4月以降も不定期で開催します。また、これまでのプログラムは、公式ウェブサイト内のレポート及び電子書籍『Parasophia Chronicle』において調査記録を公開しています。

2013

- 6/21 ORP 01 [レクチャー]リビット水田堯
「猫と犬のように——映画とカタストロフ」
会場：京都府京都文化博物館 別館ホール
- 7/27 ORP 02 [報告会]田中功起+蔵屋美香
「抽象的に話すこと——ヴェネツィア・ビエンナーレに参加して」
会場：同志社大学今出川キャンパス 良心館
- 9/6 ORP 03 [レクチャー/パフォーマンス]
ドミニク・ゴンザレス=フォルステル
「M.2062 (Scarlett)」
会場：京都府京都文化博物館 別館ホール



リビット水田堯「猫と犬のように——映画とカタストロフ」写真：光川貴浩

- 10/14 ORP 04 [対談]ダイアローグ——蔡國強×浅田彰
会場：京都造形芸術大学 人間館1階 ギャラリー・オーブ
- 10/25 ORP 05 [レクチャー]妹島和世
会場：flowing KARASUMA



田中功起+蔵屋美香「抽象的に話すこと——ヴェネツィア・ビエンナーレに参加して」写真：光川貴浩

2014

- 2/16 ORP 06 [レクチャー]円城塔
「《時間の抵抗》へ寄せて」
会場：元・立誠小学校 スタディールーム
- 4/4 ORP 07 [レクチャー]クリス・テルコン
「21世紀のための美術+建築——テート・モダン」
会場：京都国立近代美術館 1階ロビー



ドミニク・ゴンザレス=フォルステル「M.2062 (Scarlett)」写真：林直

- 4/20 ORP 08 [レクチャー]
スーザン・フィリップス
日時：2014年4月20日(日) 19:00-20:30
会場：京都芸術センター フリースペース
入場料：無料(申込不要)
定員：100名
言語：英語(日本語逐次通訳あり)

- 4/29 ORP 09 [レクチャー]
ピピロッチェ・リスト
日時：2014年4月29日(火・祝) 19:00-20:30
会場：京都国立近代美術館 1階 ロビー
入場料：無料(申込不要)
定員：150名
言語：英語(日本語逐次通訳あり)



ダイアローグ——蔡國強×浅田彰

テクニカルサポート

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015の大きな特色は作家と京都との対話です。

招聘作家は京都で様々な事前リサーチを行い、新作を構想します。その作家達の要請に応じ作品制作を支援するのは、京都に蓄積された新旧の技術と知であり、様々な才能が集う現代の総合工房です。ヤノベケンジが牽引する京都造形芸術大学内の「ウルトラファクトリー」と、名和晃平が中心に日々刺激的な創作を行う「SANDWICH」という、トップレベルの現代美術の工房が作品制作やプロジェクトの実現に協力します。

京都造形芸術大学ウルトラファクトリー ULTRA FACTORY (Kyoto University of Art and Design)

2008年設立、京都市左京区

ディレクター: ヤノベケンジ

www.ultrafactory.jp

ウルトラファクトリーは、2008年6月、京都造形芸術大学に、マイクロマシンから巨大ロボットまで、金属・木材加工、樹脂成形等が可能な全学科共通の立体造形兼実践教育工房として設立され、現代美術作家・ヤノベケンジによるディレクションのもと、第一線のアーティストやデザイナーを招聘し数々のプロジェクト型実践演習「ウルトラプロジェクト」を実施してきた。「ウルトラプロジェクト」を率いるヤノベケンジをはじめ、高橋匡太、名和晃平、宮永愛子、やなぎみわ等は、現在世界各地で活躍しており、制作をバックアップしたウルトラファクトリーは日本のアートシーンにとっても欠かせない存在として成長を遂げている。また年に1回開催される京都造形芸術大学の在学・卒業生を対象としたアートアワード「ウルトラアワード」は2010年より過去4回催され、現在注目の若手作家を輩出している。



ウルトラファクトリー内部

SANDWICH

2009年設立、京都市伏見区

ディレクター: 名和晃平

www.sandwich-cpca.net

SANDWICHは、2009年に京都・伏見にある旧サンドイッチ工場の跡地をリノベーションすることから始まった創作のためのプラットフォーム。彫刻家の名和晃平を中心にアーティスト、建築家、デザイナー、学生などが集い、ジャンルや世代を超えて柔軟で刺激的なクリエイションを展開する。

コンテンポラリーアートを中心に、ミュージシャンのPVやステージセット、ファッションブランドや写真家、ダンサーとのコラボレーション等、様々なアートプロジェクトを展開。レジデンスプログラムの運営など携わるプロジェクトは多岐にわたる。

2013年には、建築家の李仁孝、古代裕一らと共に、一級建築士事務所として、本格的に建築プロジェクトを手がけ始める。また、スイスのチューリヒに拠点を置く建築設計事務所「BLUE ARCHITECTS」と提携し、国際的な活動が進行中。



(上) SANDWICH スタジオ外観 写真: 表恒匡 (下) スタジオ内観 提供: SANDWICH

開催概要

| | |
|--------------------|--|
| 名 称 | PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015 |
| 会 期 | 2015年3月7日(土)–5月10日(日) |
| 会 場 | 京都市美術館、京都府京都文化博物館ほか府・市関連施設など |
| アーティストック ディレクター | 河本信治 (元・京都国立近代美術館学芸課長) |
| 主 催 | 京都国際現代芸術祭組織委員会、一般社団法人京都経済同友会、京都府、京都市 |
| 協 力 | 京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都嵯峨芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、 成安造形大学 |
| 助 成 | 平成26年度 文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人花 王芸術・科学財団、一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団、公益財団法人野村財団、公益財団 法人ポーラ美術振興財団 ※公益財団法人京都地域創造基金助成事業に採択 |
| 後 援 | 国際交流基金 |
| 認 定 | 公益社団法人企業メセナ協議会 |

(2014.4.4 現在)

お問合せ

京都国際現代芸術祭組織委員会事務局 (PARASOPHIA事務局)
〒604-8152 京都市中京区烏丸通蛸薬師下ル手洗水町645 flowing KARASUMA 2階

広報に関するお問合せ
E-mail: press@parasophia.jp
TEL : 075-257-1453
FAX: 075-257-1454

※本資料に掲載の画像をご用意しております。上記宛先までご連絡ください。

一般のお問合せ
E-mail: info@parasophia.jp
TEL: 075-257-1453
FAX: 075-257-1454

これまでのプレスリリースや最新情報は公式ウェブサイトをご覧ください

www.parasophia.jp